

令和3年度京都市ひきこもり支援事業補助金事業実績

スタートアップ部門

京都絵画公募展 Open Call for Hikikomori Artists (特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会)

実施日

令和4年1月18日～23日

会場

ギャリエヤマシタ2号館2階(中京区)

事業実績

社会から孤立しがちなひきこもり当事者が自らの分身ともいえる作品を公共の場で展示することにより社会参加のステップとなることを目的に公募展を開催。

令和3年6月から作品の公募を開始。

当事者だけでなく、家族や支援者も対象とし、16名からの出展があった。

公募展を開催した6日間で来場者は170名を超え、作品を出展した当事者から「自信につながる」「他の当事者の作品も見られて刺激になった」との感想が聞かれた。

作品展終了後、全展示作品を掲載したリーフレットを作成し今後の活動につなぐ一助として頂くために応募者に配布した。



当事者の書籍・手芸品等の販売ブース 提供事業 (一般社団法人 ひつつぶの種)

実施日

毎週木・土曜日

会場

コミュニティカフェ ひつつぶの種(北区)

事業実績

当事者が製作した食器やオリジナルバッグ、小物などを展示・販売するスペースを設置。当事者が自ら品物を陳列し、「素敵な場所で販売されて嬉しい」と感想を伝えてくれた。

また、当事者にとって居心地の良い場所が増えたと喜ばれた。

さらに、作品のネット販売も行い、他府県からも注文があったことで、当事者の製作意欲が上がったとの声も聞かれた。



京都市に居住するひきこもりの方や その家族のための支援事業（アガペー）

実施日

令和3年4月21日～令和4年3月30日

会場

JESUS IMAビル2階（中京区）

事業実績

当事者や家族のための生活支援を行う居場所を提供することを目的に、社会参加型マッチング体験事業とセラピー相談事業を実施。

音楽教室や料理体験、お菓子・パン作り等、様々なツールを用いて事業を実施し、相互交流の輪やネットワークを広げた。事業を通して当事者は少しずつコミュニケーションもとれるようになり、ともに生きる生活コミュニティを作ることができた。



SDGsの目標設定等を生かした、引きこもり状態にある方及びそのご家族の社会参加の場づくり （一般社団法人 ムーンライト）

実施日

令和3年9月4日、12月11日、令和4年2月26日

会場

QUESTION（中京区）、京都経済センター（下京区）

事業実績

キャリアカウンセラーや中小企業の取締役等を講師に迎え、「働きがいとは?」、「自分らしいライフスタイルとは?」、「心と体の健康」をテーマとして、3回のセミナーを開催。

各回ともSDGsの考え方のシェアとワークショップを実施し、参加者同士の意見交換の機会を設けた。

参加者からは「自分を少し理解できた」、「働くことへの不安が少し減少した」、「意見交換することで学びが深まった」等の感想があった。



コミニテ食堂交流事業

(特定非営利活動法人 恒河沙母親の会)

実施日 毎週木・金曜日

会場 コミニテ食堂(上京区)

事業実績 当事者や家族が地域住民と交流するきっかけとして、コミニテ食堂の活動を開始。

店頭で野菜の販売を行ったり、映画鑑賞や喫茶など集まりやすい環境を整備して交流の場を提供した。

当事者や家族には相談支援を行い、相談後に地域住民との交流の場につなげる工夫をした。

地域住民と触れ合い、また、当事者同士・家族同士の交流も深めることで孤独感・閉塞感の解消につながった。



受入環境整備部門

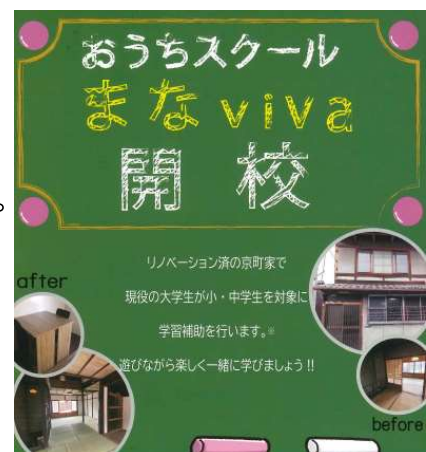
まなviva (まなviva)

実施日 毎週土曜日, 第2・4日曜日

会場 まなviva(中京区)

事業実績 空き家だった京町屋をリノベーションし、1階部分には小学生を中心としたこどもたちと学習支援を通して交流できる場所を整備した。4~5名の大学生がシフト制で立ち合い、ひきこもり状態のこどもたち4名と、学習支援を通して交流を行った。

新型コロナウイルス感染症の拡大等の要因により、初めはこども自身から言葉を発することはなかったが、勉強やけん玉等の昔遊び・簡単な実験といった五感で学べるコンテンツを通して、疑問点を自ら質問するという主体性が見られるようになった。



嵐山こども食堂ひきこもり支援事業 (嵐山こども食堂)

実施日 月1回(毎月第三日曜日に開催)

会場 嵐山こども食堂(右京区)

事業実績 当事者に嵐山こども食堂のボランティアスタッフとして参加していただく環境を整備。

事業開始に当たっては、こども食堂の既存のスタッフに必要な研修を実施。

対人を伴う作業等が難しい当事者には、食材の買出しや搬入など裏方の作業を想定した。

数名の当事者から参加の申し出があったものの、残念ながら当日参加にはつながらず、実際に行動に移すハードルの高さを痛感した。

引き続き、当事者がこども食堂に参加することで、社会参加の一步となるよう、働きかけていきたい。



区社協カフェ

(社会福祉法人 京都市中京区社会福祉協議会)

実施日 7, 8, 10, 11, 12, 1月の第1木曜日

会場 元教業小学校(中京区)

事業実績 平成28年度から取り組んでいる区社協カフェ。

令和3年度は「孤立の解消」、「多様性の尊重」に主眼を置き、当事者が参加しやすい環境を整備。

“どなたでも利用いただけるカフェ”と案内することで当事者に参加を限定することなく利用いただける場とした。

コロナ禍で屋内のカフェを中止せざるを得ない時期もあり、“だれが見に来てもお世話をしてもいいガーデン”「教業ガーデン」(随時実施)の事業を合わせて実施。

継続的に参加され、ガーデンのお世話をする等の役割を担うことをきっかけに、新たな一步を踏み出そうとされる方もあらわれるなど、社会参加とつながる場となっている。

